

条幅随意参考



『たのめしこ登曾 いのち那利ける』

行に見られる筆圧の違いと、行のからみ合いに注意して臨書し、調和よく「〇〇臨」と入れる。

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部（無料）にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

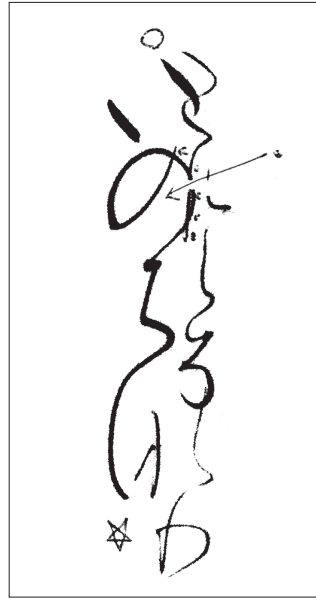
(二玄社)

宮 絢子先生担当 半紙臨書課題

(6月22日締切) 出品料440円

升色紙 第四回

- 1、字句「こ登曾いのち那利」
- 2、形式「半紙」で使用。大筆で一行に臨書し、左余白に本文に添う大ききで「〇〇臨」と入れる。

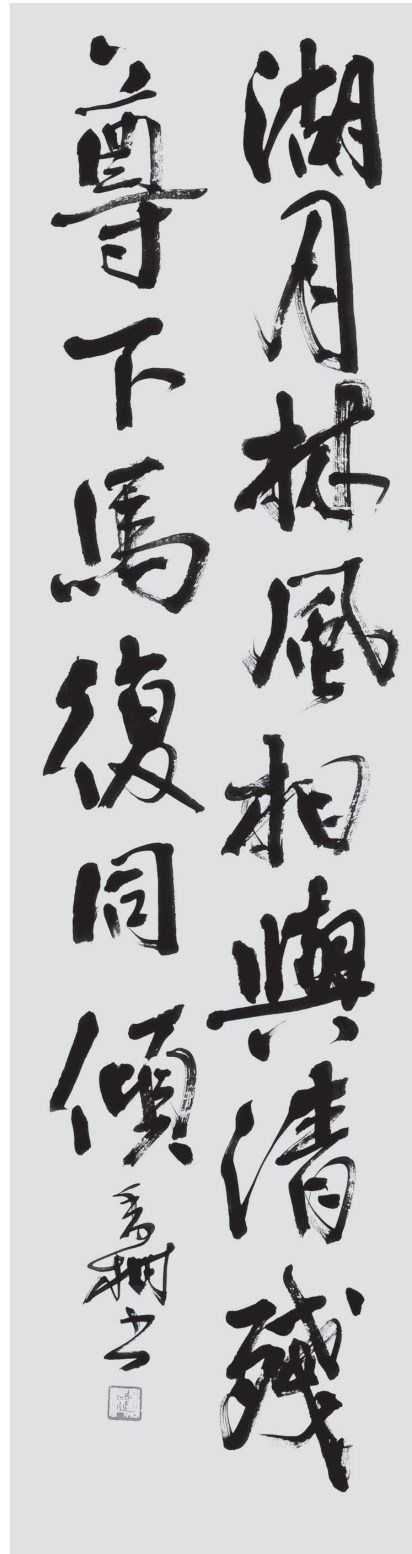


- 3、概観「升色紙」の臨書が始まって四回目ですが、一回目から同じ一枚をとり上げています。一枚の中に「学びに価するさまざまな視点がある」と気づき、臨書の意義を体得していきたくらです。今回の視点は、これまで学んだ「鋒先から生まれる緊張感あふれる細い線」の行と、「たぶりの筆圧」を使った行を、からみ合わせることで。このからみ合いこそ、今後学んでいく「升色紙の散らし方」の一つにつながります。
- 4、各字のポイント『細い線と太い線のからみ合い』  
こ 鋒先でゆっくり入筆し、二筆目の終わりは少し止まり、方向を見定めて「登」の一筆目へ連綿。  
登 二筆目は「の」に入り込んでおり、渴筆のため見えにくいが一画あるので見落とさない  
の (←)。四筆目の終筆はゆっくりと「曾」へ。  
曾 終筆は「い」へ向かう。  
い 太い線(筆圧をかけた線)の中にも「こ」との交差に見られる「笹の葉」の筆使いに注意。(〇)

の 「と(登)」の一・二筆目と微妙に重なっていない線であることに注意。(…)  
ち 筆圧を一定にし、隣の文字に重なりを持たない文字として連筆する。  
那 「ち」からの連綿と一筆目は筆圧を同じに。四筆目は筆圧を落として「曾」に重なり、そのままの筆圧で「利」へ。  
利 「の」に見えないように注意。(☆)

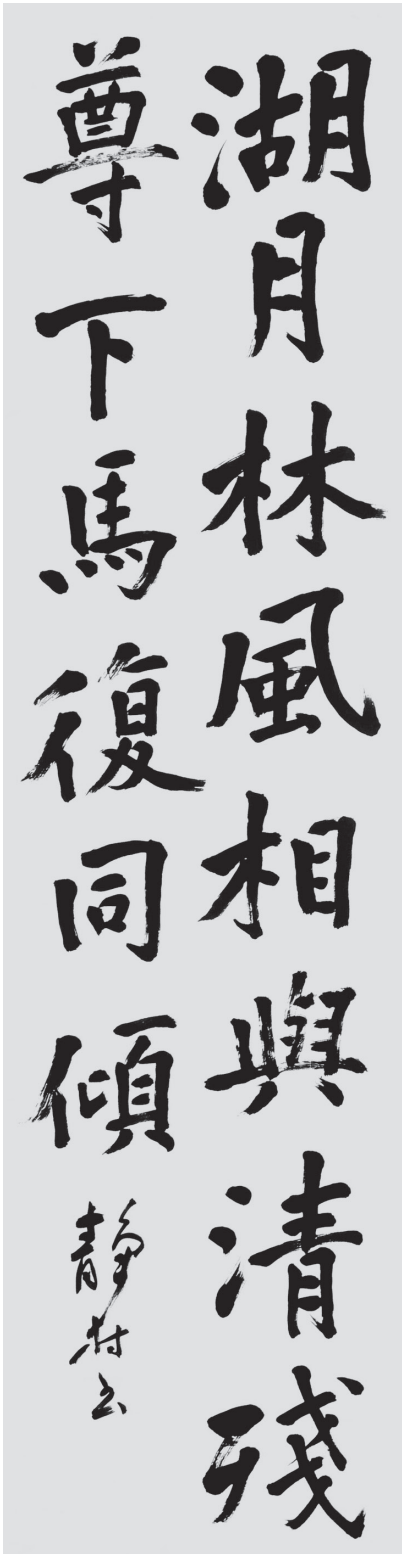
A 高橋香樹会長書

湖月林風相與清 殘尊下馬復同傾 (杜甫)  
湖月林風相與に清し、殘尊馬より下して復同じく傾く。



B 鈴木静村先生書

今回は行書単体作を思いましたが、草書を入れたいと流れがつけにくいと思い、数字草書を入れることも考え書いてみたが、最終的には行書単体作とした。「月」が三ヶ所(湖・月・清)あるので変化を。右行と左行で文字が並ばないように。墨継ぎ(「與」と「復」と)と、文字の大小で変化を。



ハネは続ける意識が大切(湖月林相清尊馬同)。次の画へ続ける気持ちで、サラリと抜きます。ハネは「趨法」といって、「抜く」という意味があるからです。風残のハネは「戈法」で用法が違います。風残のハネは「戈法」で用法が違います。

月林風

訳：湖上に照る月も、木の間を通う風も、共に清らかな夜、酒を飲んでいると、折よく友人が馬に乗ってやって来た。早速馬からおろして、飲み残りの酒樽を傾けて飲んだ。

予告 (七月二十二日締切)

走馬西來欲到天

辭家見月兩回圓 (岑參)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

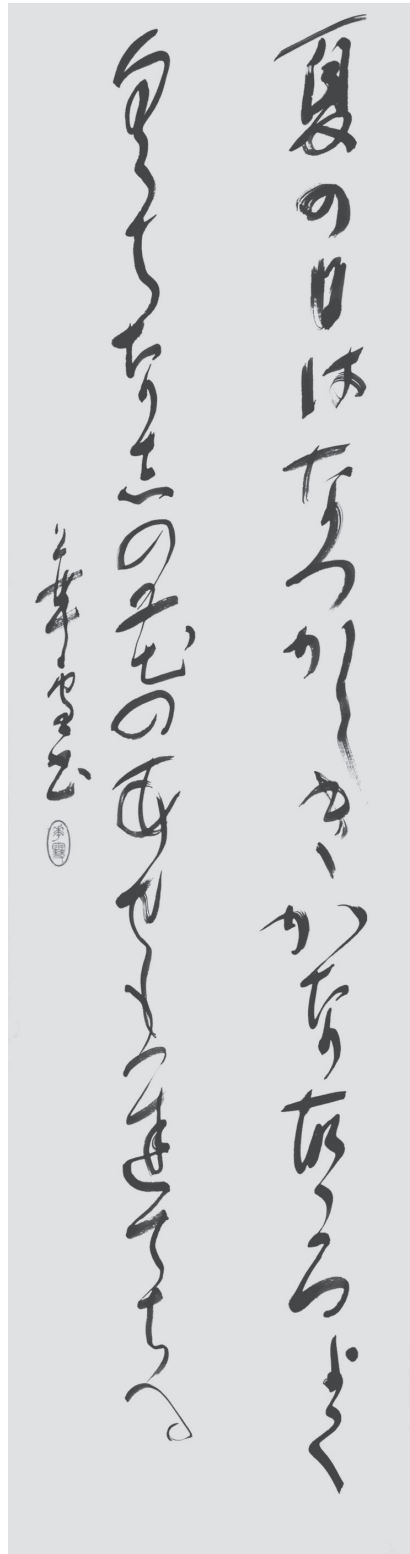
条幅部かな課題参考

(六月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

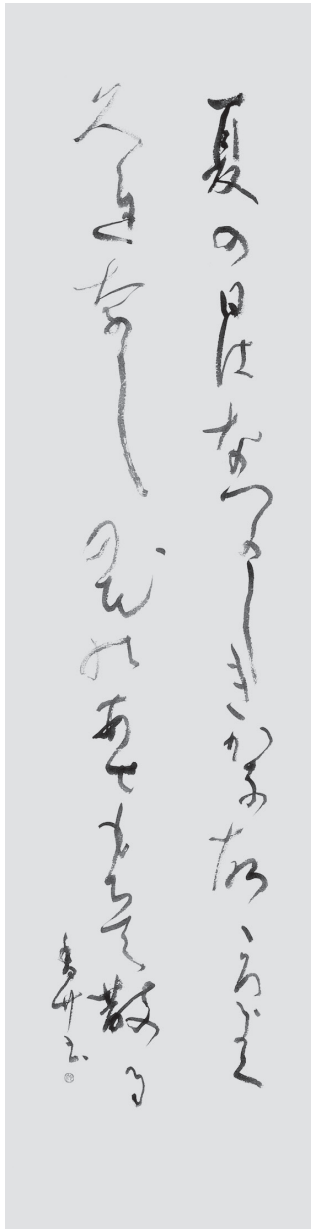
夏の日はなつかしきかなころよく梔子の花の汗もちてちる (北原白秋)  
夏の日はなつかしきかな故より久具ちな志の花のあせも遅てちる



B

青柳香竹先生書

夏の日はなつかしきかな故より久遅奈しの花能あせもち天散る



北原白秋 (明治一八年)

昭和一七年)

福岡県生まれ。

芸術院会員、詩、短歌、

童話、小説等総合詩人として多角的業績を積む。

与謝野鉄幹に師事し、『明星』に参加した。詩

集『邪宗門』歌集『桐の花』『雲母(きらら)集』

『雀の卵』『白南風(しら

はえ)』などがある。

歌意：夏の日はなつかしいことだなあ。深い匂いをたたえて音もなく散るくちなしの白い花は汗ばんでいるよ。

太・細の変化、字形の大・小、間隔のゆとりの変化を考えて入れました。

二行目の前半は渴筆でゆったりと、そして、「久遅なしの花」を思い、梔子の香りと白い花のやわらかな、やさしい印象を仮名で、少し離して表現してみました。皆さんの気持も入れて違った表現もしてみてください。

学び方

予告 (七月二十二日締切)

山にして遠裾原に鳴く鳥の聲のきこゆるこの朝かも (島木赤彦)

◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部随意参考（創作部門最優秀作品）

柗  
小林 崇華

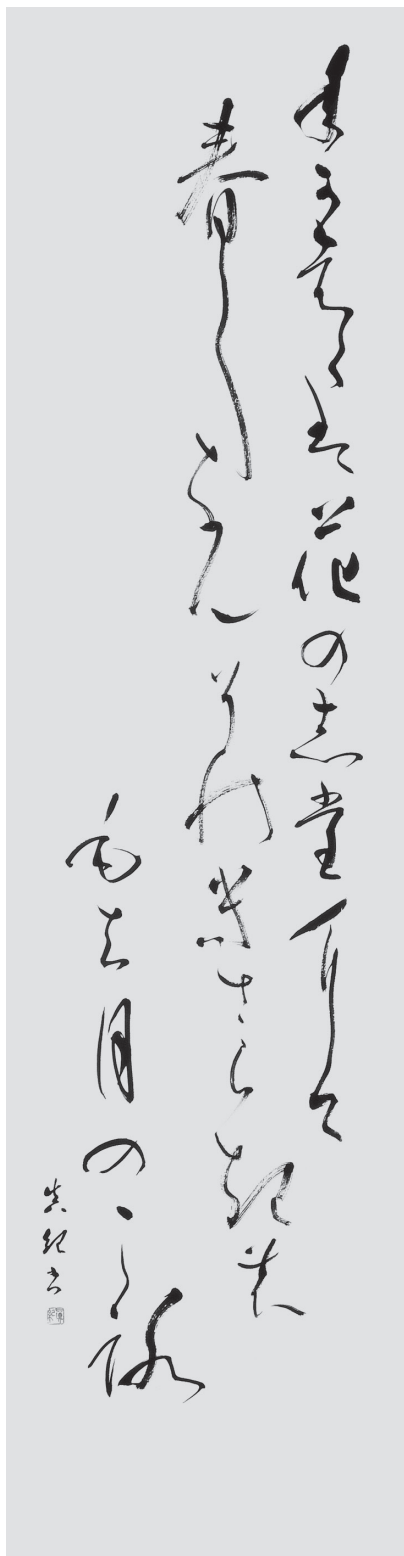
禪榻近茶竈（高啓）  
禪榻茶竈に近し



訳：境地まことに幽寂である。

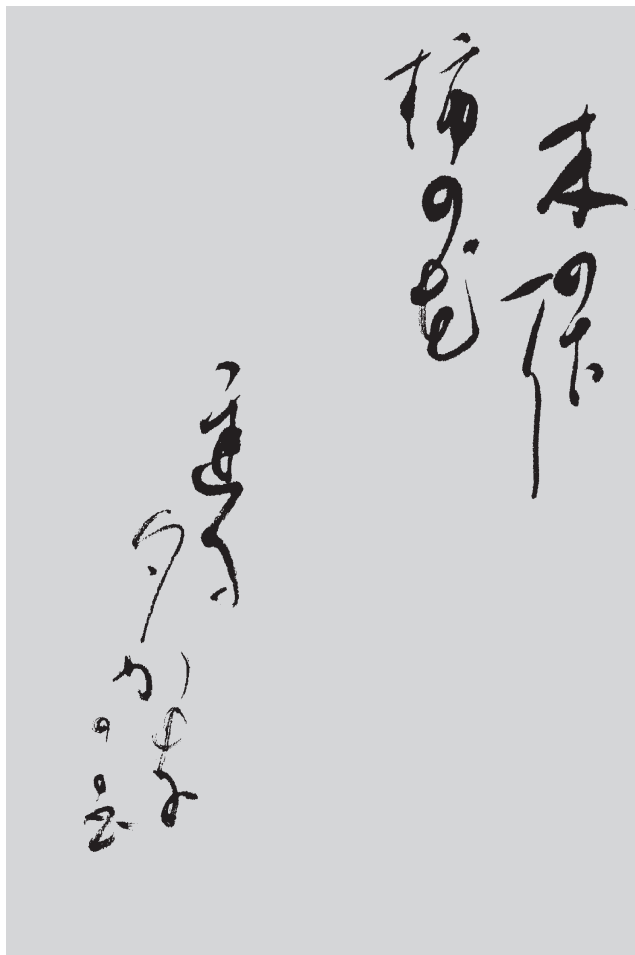
芙蓉  
田中 真紀

願はくは花の下にて春死なんそのきさらぎの望月の頃（西行）  
年可者く盤花の志堂耳て春し奈んそ能幾さら起農毛知月のこ路



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）
- ※創作部門最優秀作品は随意部参考手本として掲載します。

かな部課題参考 (六月二十二日締切)



(七月二十二日締切) 夕立にあとかたもなし雲の峰 (正白)

漢字部課題参考 (六月二十二日締切)



(七月二十二日締切) 茶煙永日香 (方回)

平岡華雪先生書  
木の下に柿の花散る夕かな (蕪村)  
木の下耳柿の花遅る夕かな

これは華雪先生が時折試みの「二筆書き」の手法。特に、この左群の線の妙趣は先生の特有。墨継ぎする場合、各自でその個所を工夫のこと。

平岡華雪先生書

夏木立 新色 (陳鑑)

訳：夏木立は水々しい色を呈し

「夏、木」の右払いは、半紙からはみ出さないように、のびのびと書きたい。「新」の末画は、曲らないように勢いよく。「色」の末画はするっとさせないで三折的に用筆したい。



この形に

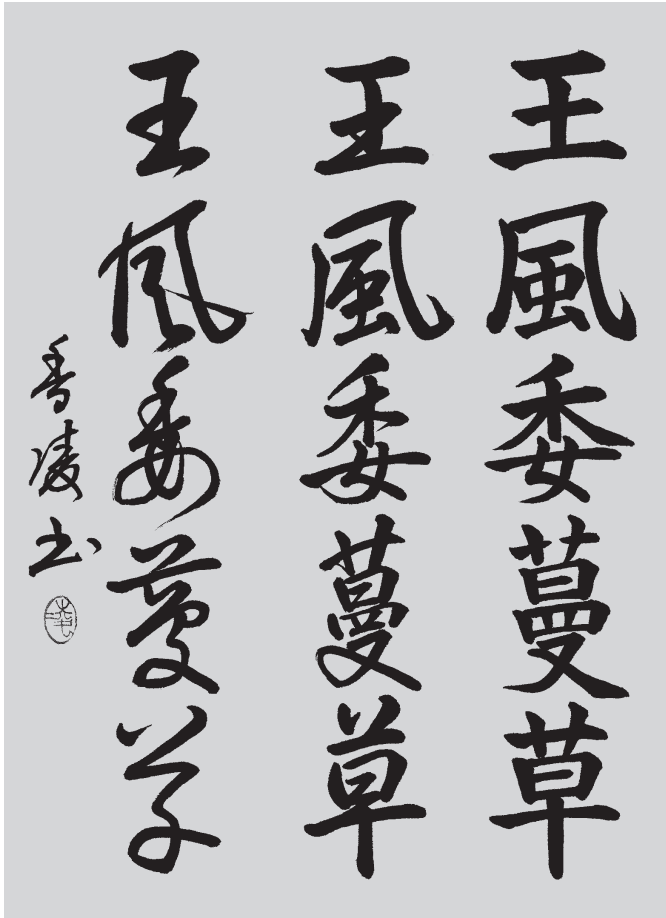
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (六月二十二日締切)

漢字かな交じりの書課題参考 (六月二十二日締切)

訳：「王風」の歌の伝統も、やがて蔓草の茂みに埋もれてしまい、

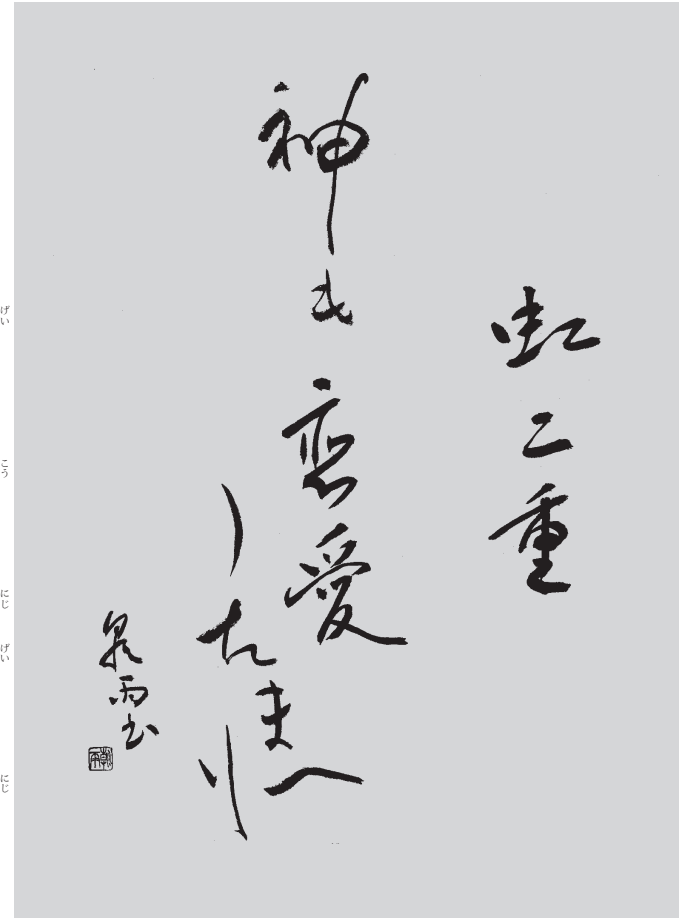


高橋香凌先生書

王風委蔓草 (李白)

王風は蔓草に委てられ

昔、中国では、虹のことを「霓」とも書き、虹は「オスの虹」、霓は「メスの虹」と言われていた。それを踏まえて、天上の神々の恋ととらえたロマンチックな句。「虹二重」で一息いれて虹をイメージし、後半一気に「神も恋愛」まで書いて、「したまへり」をゆったりと添えるように書いた。



槍田朝雨先生書

虹二重神も恋愛したまへり

津田清子

出典『礼拝』(昭和34年)

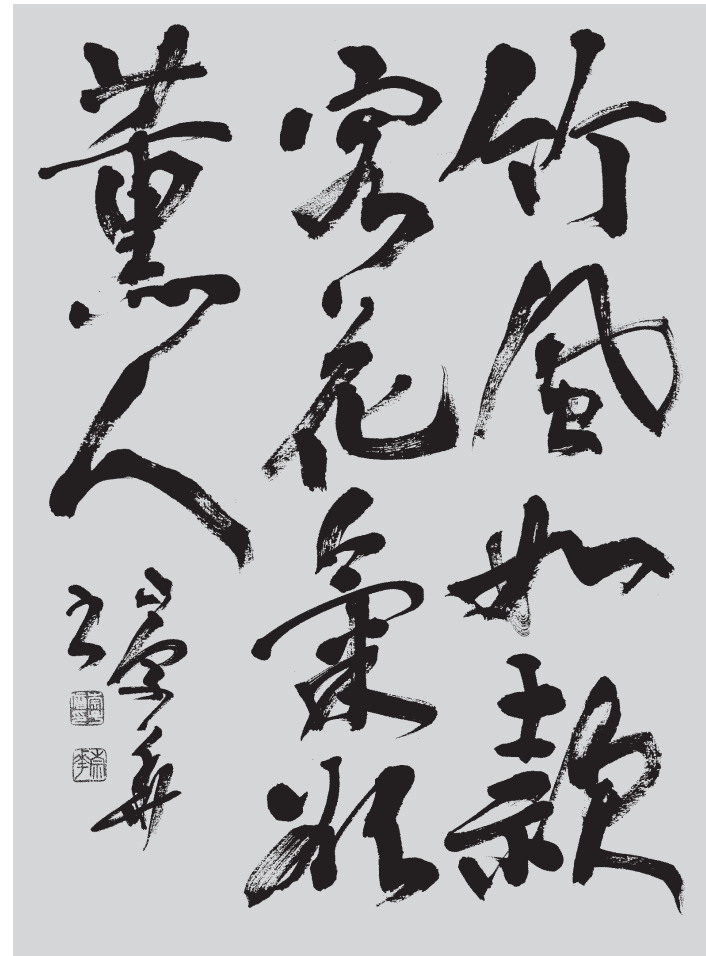
(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

小林崇華先生書

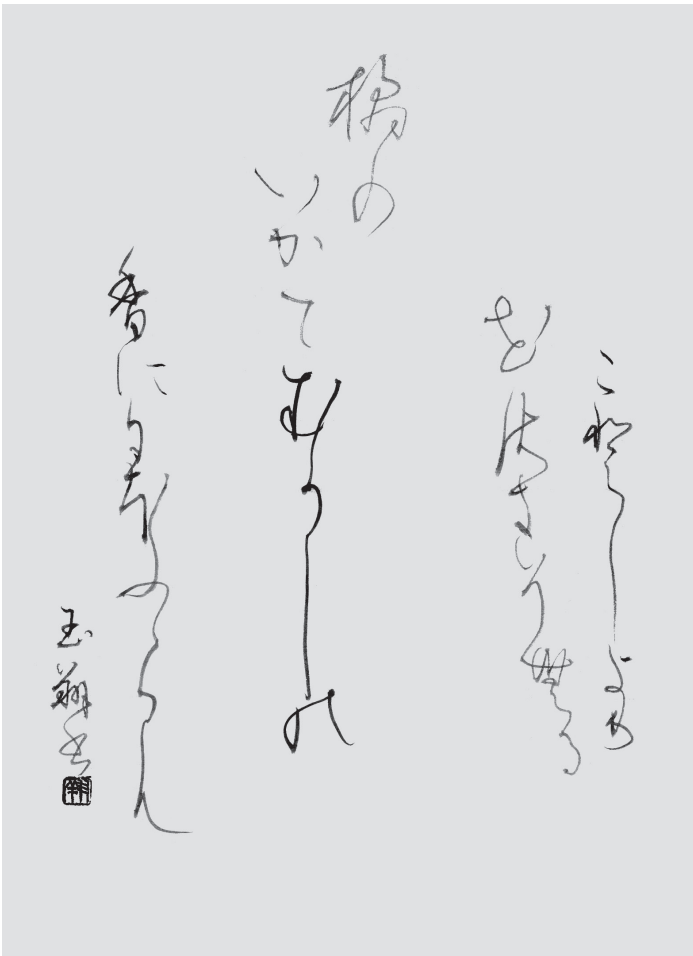
竹風如款客 花氣欲薰人（張銓）  
竹風客を款くが如く、花氣人を薰せんと欲す。



訳：竹におとずれる風はちようど客を訪うが如く、花の香りは侵しきて人を薰ぜんばかりである。

福田玉翔先生書

ことしより花咲きそむる 橘のいかで昔の香に匂ふらむ（ん）（藤原家隆）  
こ登しよ利花佐支曾無る橘のいかでむ可し能香に尔本ふらん



(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

稲畑曄穂先生書

川上香蓉先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)

新しう力が地上に動ソソる。そそろく  
 輝いた祝福が空に在る。若草の芽  
 が萌え出で、樹の梢が伸びてソる。

庭先に椎の古木がある。その常緑樹  
 は他の落葉樹と違って、晩春初夏の  
 頃、盛んに古葉を散らし、余剰の花を  
 降らせる。

課題1 (初段以上)

庭先に椎の古木がある。この常緑樹は他の落葉樹と違って、晩春初夏の頃、盛んに古葉を散らし、余剰の花を降らせる。

〔自然〕豊島与志雄

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段格以下)

新しい力が地上に動いている。そして輝いた祝福が空に在る。若草の芽が萌え出で、樹の梢が伸びている。

〔旅人の言〕豊島与志雄